OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	教育の情報化に向けて
Author(s)	竹村, 治雄
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2006, 7, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70219
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻　頭　言

教育の情報化に向けて

サイバーメディアセンター　副センター長
情報メディア教育研究部門
教授　　竹村　治雄

本年 2 月に、情報基盤委員会が設立されたのに続いて、情報デザイン機構、情報推進部が発足し、大阪大学の情報通信基盤を支える組織が整えられました。また、あわせて全学規模 e-Learning 基盤整備プロジェクトが発足し、一足先に整備が進められている新学務情報システム KOAN の導入と連携して全学規模の Learning Management System(LMS)の導入が進んでいます。大学教育実践センターでは、すべての授業について学生と教員のコミュニケーションに LMS を 2007 年度から用いる方針で、計画を進めており、それにあわせてノート PC の携行を新入生に推奨し、そのために必要な無線 LAN 環境の整備も本年度行われる予定です。また、情報基盤委員会下には､教育情報化ワーキンググループが組織され､従来のマルチメディア教育委員会の役割を引き継ぐとともに、大阪大学における教育情報化に関する各種プランニングを行う予定です。

これらの一連の動きは、他大学の動向を見ても、情報通信技術の教育への利用と考えても、早晩対応しなければならない動きであることには違いありません。しかし、ともすればハードウェアや基盤整備が先行し、その真の目的が明確でない場合が多くあると思われます。ここでは、再度、教育の情報化の真の意味を確認してみようと思います。

教育の情報化は、今までの授業をよりオープンなものに変革させる可能性があります。教材を電子化することで教材の再利用や流通を促進することが可能です。また、掲示板等を利用しての学生とのコミュニケーションの充実に加えて、学習者コミュニティの育成も期待でき、学習者同士が情報を共有して学習を進めることが可能となります。

教育の情報化を推進することは、前述のような様々な利益をもたらしますが、もっとも大切なことは、利用者である学生と教員にとって十分なメリットがあるような導入を心がけることです。たとえば LMS を利用する教員に過大な労力が必要となるようであれば、利用の促進は困難です。そのため、サイバーメディアセンターでは LMS 利用に関するヘルプデスクを設置し、教員からの様々な質問や要望に答えられる体制を構築しています。また、学生にとっても、自身の受講している講義が LMS 上で一覧でき､授業に関する質問やレポートの提出を LMS 経由で行えることは、教育に関するワンストップサービスの実現に一歩近づくものであると思います。

本年秋には､新学務情報システム KOAN との連携もスタートし、大阪大学の教育の情報化のための基盤整備が本格化します。より多くの教員の方々が利用されることを切望いたします。